



コロナ禍、子どもたちの学校は閉鎖され、モノゴールの寄宿学校に戻ってこれなかった子どもたちも多かったですが、古くからのメンバーには会うことができました。戦禍でのつらい経験を乗り越えて、毎年どんどん大きくなっていくので驚きます。

2020年度 ジュマ・ネット活動報告書・決算書
2021年度 活動計画・予算書

2020年度 活動報告

1. 平和促進活動

(1) 北東インドのアッサム州の市民権を奪われた人々への支援活動

2019年8月にインドで実施された全国市民登録簿(NRC)の見直しにより、インド、アッサム州の190万人、主にイスラム教徒が名簿から除外される事態が発生しており、生活的にも精神的にも非常に苦しい状況に置かれている。そのため、ジュマ・ネットは現地NGOである、平和研究センターと共同で、アッサム州バルペタ県の貧困世帯を対象に支援活動を行った。主な支援活動は、①2年生から6年生300名の児童教育支援活動、②6つのグループを組織し手工芸品づくりを通じた女性の収入向上活動、③現地の状況がわかるビデオ編集、④専門家による法的支援のミーティングなどを行った。

また弁護士ネットワーク団体のJustice and Liberty Initiativeらと連携し、シャバダベグンさんの国籍を政府に認知させるための裁判を支援する活動を行った。



平和研究センターによる児童教育支援活動

(2) 北東インド、トリプラ州の人権団体エンパワメントプロジェクトの実施

インド、トリプラ州はベンガル人の流入が続いており、先住民族のトリプラ民族は、トリプラ州の人口の約2割とエスニック・マイノリティ化が進んでいる。州の政治や政策もベンガル人中心の傾向が強まり、民族対立意識から生まれる抗争やトラブルが絶えない状況である。トリプラ民族の人権を守るための唯一の組織である、Borok Peoples Human Rights Organisation(BPHRO)の組織強化の支援を行った。インターネット環境やパソコンなどを整備し、主に土地の不当な収奪を調査し、



トリプラ州、女性を対象とした研修の様子

インターネットなどで、それらを告知する活動に力を入れる他、村人を対象に、土地の権利と登記の必要性を理解させる研修を行った。

2. エスニック・マイノリティの被害者支援活動

(1) チッタゴン丘陵、児童・生徒の教育支援

ジュマ・ネットはチッタゴン丘陵の内紛が原因で父親が殺害された、ベンガル人入植者に土地を奪われた、レイプ被害にあった等、深刻な被害を受けた家族の児童・生徒をチッタゴン丘陵のランガマティ県にある寄宿学校モノゴールで、親元を離れて学ぶことになっている。

2020年度は、ジュマ間の内部抗争で父親を殺された4名の学生を加え、計10名の児童・生徒を支援した。しかし1名の児童が、実家に戻ることになり、年度末には9名の支援体制となった。



2020年の支援児童生徒

(2) チッタゴン丘陵バンダルバン県のムローの小学校の支援活動

チッタゴン丘陵の3県の中で、南に位置するバンダルバン県には、ムロー民族が多く住んでいる。片方でこの地域は軍の強い支配下であり、不法な土地収奪が集中する地域でもある。バンダルバン県州都バンダルバン市のやや郊外のビッタパラ小学校の周辺の農民の土地を軍が不当に収奪し、地代を徴収するといった惨状が続いている。そのため、小学校の3名の教員の給与、3名の上級生生徒の教育支援、そして教材などの支援を行った。



サクシン・ムロ先生

メンリン・ムロ先生

ルイヨン・ムロ先生

2020年度 紛争地における教育支援の児童・生徒



リトン・チャクマ
19歳で12年生になります。軍人にお父さんが撃ち殺され、勉強の機会を失いそうな時に、ジュマ・ネット支援で妹のシリカと一緒に8年前にモノゴールにやってきました。なんとか高校認定試験に通り、今は、地元の短大に通っています。



シリカ・チャクマ
16歳で10年生です。兄のリトンと一緒にこのモノゴールに7年前にやってきました。笑顔で少しやんちゃな女の子になりました。一度勉強が嫌いになり、実家に戻ったこともありましたが、心を入れ替え、再度モノゴールでチャレンジしています。



リク・チャクマ
18歳です。お父さんがベンガル人に殺され、お兄さんと9年前にこのモノゴールで学び始めました。4年前に内耳炎がももて、聴覚障害者となってしまい、しばらく勉強を続けるか悩んでいましたが、2年前からはパン屋、縫製の修業をしています。



トゥンパ・チャクマ
10歳で5年生です。4人姉妹の3番目で、すぐ上のお姉さんのエリと一緒に、モノゴールにやってきました。父親が対抗する武装グループに殺害され、いまだに発見されていません。好きな科目はベンガル語で、英語が苦手だそうです。授業のない金曜日はお姉さんと一緒に遊んでいます。



ノンディン・チャクマ
17歳で10年生です。お母さんは2歳の時に病気で亡くなり、兄弟はいません。2年前にお父さんが敵対するグループに殺害され、孤児になりました。英語が好きで、数学が苦手です。休みの日は友達と歌をうたったりしています。



イティモニ・チャクマ
14歳で9年生です。モノゴールに来て、もう7目になります。小さいころ悲しい事件に遭い、ジュマ・ネットの支援で、モノゴールで学ぶことになりました。以前はほとんど笑わない子どもだったのですが、最近はこんなに笑う元気な女の子になりました。好きな科目は英語と歴史です。



エリ・チャクマ
12歳の7年生です。お母さんから、6年生になったらモノゴールで勉強するのよと言われ、ここにきました。お父さんが敵対するグループから殺害され、非常につらい思いをしました。妹のトゥンパと一緒に勉強しています。

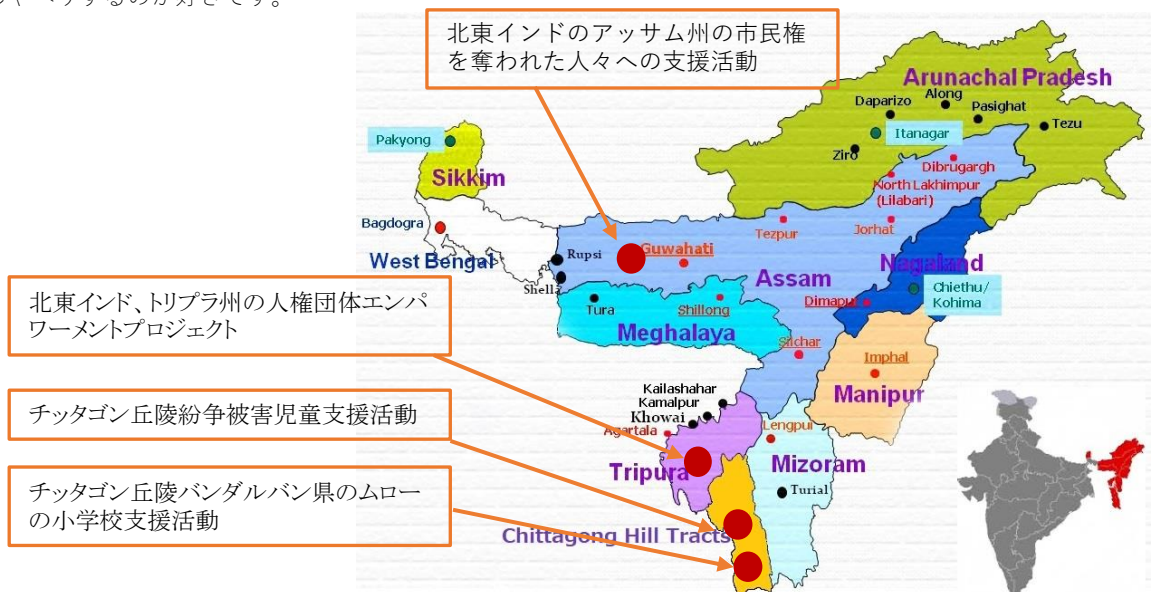


リベン・トリプラ
16歳で10年生です。モノゴールに来て、2年目です。家庭が非常に貧しく、周辺のベンガル人に脅される生活だったため、現地のNGOスタッフと相談して、モノゴールで学ぶことになりました。まだ生活に慣れないのか、言葉少なく語ってくれます。



モンプリ・チャクマ
10歳で、4年生です。モノゴールに来て3目になります。小さい頃悲しい事件に遭い、勉学をつんで自立する決意し、このモノゴールにやってきました。最近は、友達もでき、笑顔が多くなってきました。勉強は英語が好きで、お友達とおしゃべりするのが好きです。

2021年活動地MAP



2020年度 ジュマ・ネット特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表			
		[税込] (単位:円)	
		2021年 3月31日 現在	
資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		仮受金	0
現金	221,187	流動負債計	0
郵便振替口座預金	3,902,371	負債の部合計	0
普通預金	1,499,948	正味財産の部	
現金・預金計	5,623,506	【正味財産】	
(その他流動資産)		正味財産	3,005,326
仮払金	288	(うち当期正味財産増加額)	2,439,487
貸倒引当金	△ 178,981	正味財産計	5,444,813
		正味財産の部合計	5,444,813
流動資産合計	5,444,813		
資産の部合計	5,444,813	負債・正味財産の部合計	5,444,813

2020年度 ジュマ・ネット特定非営利活動に係る事業会計収支計算書			
		[税込] (単位:円)	
		自 2020年 4月 1日 至 2021 3月31日	
《経常収支の部》			
[経常収支の部]			
【経常収入】			
受取会費	348,000		
受取寄付金	1,956,710	助成金50万含む	
受取助成金	0		
国内活動収益	0		
販売事業収益	0		
受取利息収入	12		
フライトキャンセル料	38,000		
経常収入計			2,342,722
【事業費】			
海外事業費	2,662,475		
通信費	140,220		
支払手数料	25,930		
印刷製本費	160,788		
仕入高	5,800		
当期事業費計	2,995,213		
合計	2,995,213		
事業費計			2,995,213
【管理費】			
通信運搬費	46,497		
事務用消耗品費	440		
支払手数料	1,963		
地代 家賃	215,910		
管理費計			264,810
経常収支差額			△ 917,301
[その他資金収支の部]			
【その他資金収入】			
その他資金収入計			0
当期収支差額			△ 917,301
前期繰越収支差額			6,360,514
次期繰越収支差額			5,443,213

* 上記決算報告は、2021年5月21日、監事の井口由美子氏の監査を受け、適正であったこととお知らせします。

2021年度 活動計画（案）

1. 平和促進活動

(1) 北東インドのアッサム州の市民権を奪われた人々への支援活動

2019年8月にインドで実施された全国市民登録簿(NRC)の見直しにより、市民権を奪われたインド、アッサム州の190万人の人々の問題を監視し、生活支援と合わせて、法的支援を継続していく。生活支援については子供の教育支援、女性たちの収入向上活動を継続し、市民権を奪われた人々の状況を監視していく。法的支援については現地弁護士団体2団体と連携し、具体的な裁判支援を通して法にもとづく、モデル的な事例を生み出していく。



刺繍の布をつくる女性たち

(2) 北東インド、トリプラ州の人権団体エンパワーメントプロジェクトの実施

インド、トリプラ州はベンガル人の流入が続いており、先住民族のトリプラ民族は、トリプラ州の人口の約2割とエスニック・マイノリティ化が進み、人権侵害や土地の収奪が進んでいる。トリプラ民族の人権を守るための唯一の組織である、Borok Peoples Human Rights Organisation(BPHRO)の組織強化支援を継続し、国際社会への発信力を高めるための能力アップと、現地住民の権利意識を育む活動を継続していく。



ミーティングに集まるトリプラの住民たち

2. エスニック・マイノリティ被害者支援活動

(1) チッタゴン丘陵 児童・生徒の教育支援

ジュマ・ネットはチッタゴン丘陵の内紛が原因で修学機会を失った児童・生徒を対象に奨学金を提供し、学習支援を2007年より続けてきた。父親が殺害された、ベンガル人入植者に土地を奪われた、レイプ被害にあった等、深刻の被害を受けた家族の児童・生徒を、現地スタッフと慎重に対象児童を選考している。選考された児童・生徒は、チッタゴン丘陵のランガマティ県にある寄宿学校モノゴールで、親元を離れて学ぶことになっている。

2019年度は6名の生徒の支援を継続した。2020年度は、ジュマ間の内部抗争で父親を殺されたり、レイプ被害にあった3名の学生を加え、計11名の児童・生徒を支援する予定である



(2) チッタゴン丘陵バンドルバン県のマイノリティ・コミュニティ、ムローの小学校の支援活動

チッタゴン丘陵の3県の中で、南に位置するバンドルバン県には、ムロー民族が多く住んでいる。片方でこの地域は軍の強い支配下にあり、不法な土地収奪が集中する地域でもある。バンドルバン県州都バンドルバン市のやや郊外のビットパラ小学校の周辺の農民の土地を軍が不当に収奪し、地代を徴収するといった惨状が続いている。そのため、小学校の教員の給与や教材の支援、貧困世帯の児童の奨学金の支援を継続する。



ビットパラ小学校の子どもたち

3. ライフスタイルを変えるアクション活動

(1) 大量消費のライフスタイルを見直す学びの場づくり アース大学

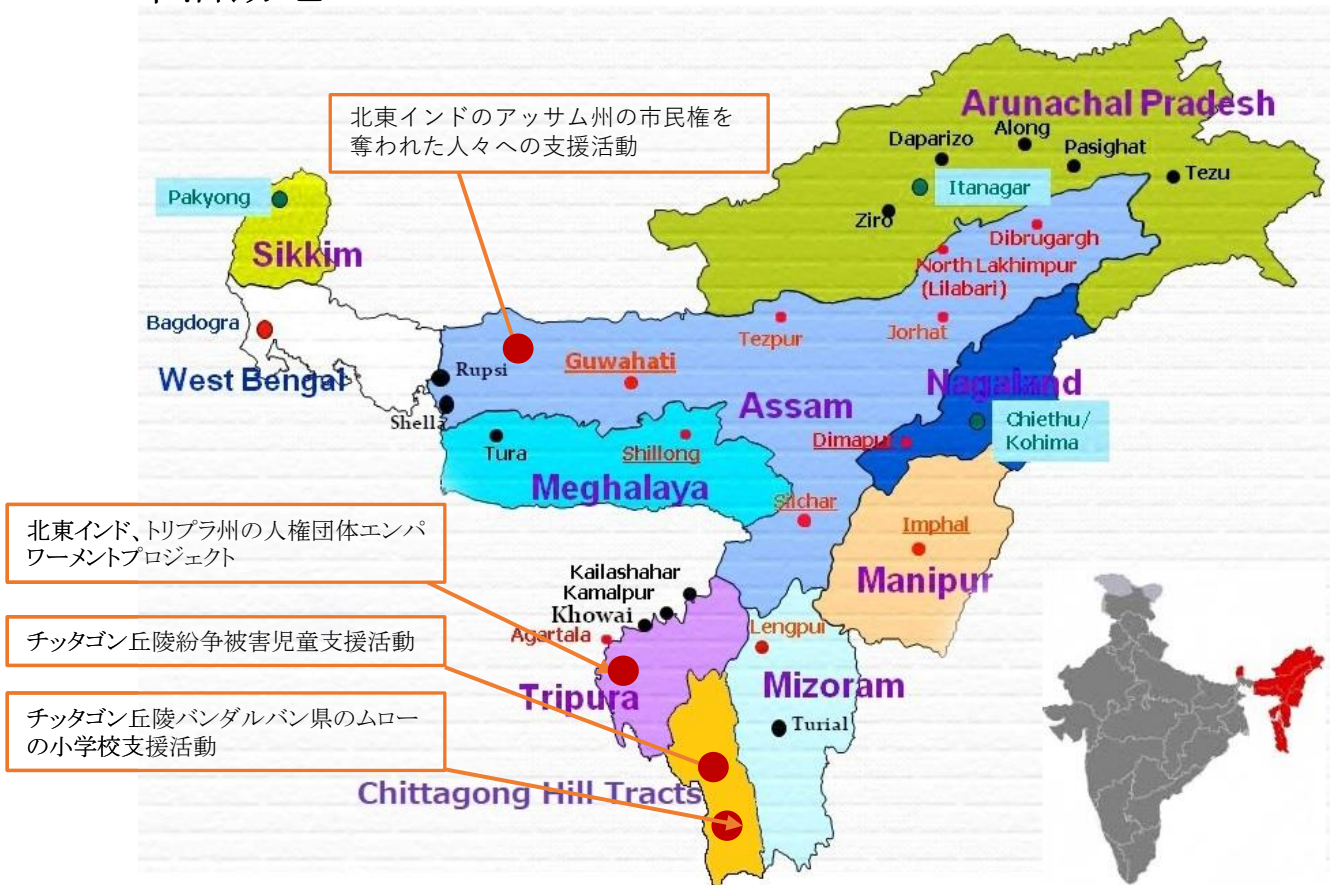
地球社会に残った大きな課題は、「民族対立」以外にも、大量消費と化石燃料に依存したライフスタイルを見直すことである。途上国の経済成長がさらに進むと、地球社会そのものが維持できない可能性がある。先進国も途上国もこれから地球に不可をかけない生活を模索する必要がある。

ジュマ・ネットは、ライフスタイルへの問題提起をSNS等に拡散すると同時に、これらを学び合う場としてのアース大学(仮称)を実施を実施する。

(2) 新しいライフスタイルのための代替品、代替案の創出

持続可能なライフスタイルを生み出すための提案、代替品の提供を徐々に実施していく。一部は商品として販売も検討する。

2021年活動地MAP



2021年度 予算書

2021年度 予算書				
【経常収支の部】				2021年3月31日現在
【経常収入】		2020年度決算	2021年度予算	備考
会費		348,000	350,000	
寄付金収入	寄付	1,456,710	1,815,000	11月～2月の間 テーマ未定
	クラウドファンディング	0	500,000	
	小計	1,804,710	2,315,000	
助成金	助成金	500,000	500,000	アジア人権基金
	小計			
参加費収入			50,000	アース大学 1000円×50人
返還金	豪州訪問キャンセル料	38,000		
利息収入		12		
経常収入 計		2,342,722	3,215,000	
【事業費】				
海外活動費	モンゴル紛争被害児童教育支援事業	476,160	480,000	
	バンドルバン小学校支援事業	380,000	300,000	
	インド・アッサム調査および支援事業	1,504,390	1,300,000	
	トリブラ州人権団体支援事業	301,925	300,000	
	旅費交通費	0	100,000	現地出張経費
	現地調査費		60,000	現地取材、写真・ビデオ撮影
	小計	2,662,475	2,540,000	
商品仕入れ高	販売事業の仕入代金等	5,800	10,000	
	小計	5,800	10,000	
国内活動費	通信運搬費	140,220	140,000	
	業務委託費	0	0	
	消耗品費	0	0	
	支払い手数料	25,930	25,000	
	ウェブ再構築料	0	240,000	
	印刷製本費	160,788	120,000	
小計	326,938	525,000		
事業費 計		2,995,213	3,075,000	
【管理費】				
旅費交通費		0	0	
通信運搬費		46,497	45,000	
消耗品費		440	3,000	
支払手数料		1,963	3,000	
地代 家賃		215,910	84,000	7,000円×12か月
印刷製本費		0	5,000	
雑費				
管理費 計		264,810	140,000	
	【事業費】+【管理費】	3,260,023	3,215,000	
	経常収支差額	(917,301)	0	
	前期繰越収支差額	6,360,514	5,443,213	
	次期繰越収支差額見込み	5,443,213	5,443,213	

2021 年度ジュマ・ネット役員

2021 年度ジュマ・ネット役員	
共同代表（2名）	
下澤 嶽	大学教員
トム・エスキルセン	通訳
運営委員（3名）	
安達 淳哉	会社員
木村 真希子	大学教員
日下部 尚徳	大学教員
事務局長	
稲川 望	大学院生
アドバイザー委員（5名）	
郡司 真弓	ジュマ・ネット会員
渋谷 敦志	フォトジャーナリスト
ディプティ・シヨンコール・チャクマ	会社員
野口 陽一	団体理事
持田 貫信	僧侶
監事（2名）	
今村 公保	僧侶
井口 由美子	会社員

エスニック・マイノリティの人々が、平和な社会に暮らし、基本的な人権が守られ、自立的な発展が保障される社会を目指す。

ジュマ・ネットの歩み

2002年	4月、日本人ボランティアと在日ジュマでジュマの正月行事「ボイサビ」を実施。
2003年	8月、カグラチヨリ県マハルチヨリの襲撃事件が発生。緊急支援活動を実施する。 11月、ジュマ・ネットの設立総会が開催される。
2004年	11月、ジュマ・ネットの事務所開設。 12月、入管に拘束されたディプティさんを救う緊急行動市民の会に参加し、協力。
2005年	2月、第1回平和ミッションを実施。13名が参加。
2006年	3月、マイメンシン県のエコ・パーク建設反対活動を支援。 7月、「コロナフリの涙」上映・DVDの発売 6月、チッタゴン丘陵国際委員会の結成に関わる。その後委員会の支援を継続する。
2007年	11月、チッタゴン丘陵白書完成、出版。
2008年	7月、販売事業を開始。 12月、ランライ氏とボクール氏の釈放のための署名キャンペーンを実施。
2010年	2月、バングラデシュ首相に「チッタゴン丘陵和平協定の完全実施を求める要請書」を手渡す。
2011年	5月、国連の先住民族問題常設フォーラムに参加。その後、毎年参加を続ける。
2012年	2月、事務所を秋葉原に移転。
2014年	5月、NGO3団体で、エスニック・フェスタを開催する。 5月、新しいチッタゴン丘陵白書を出版。
2015年	9月、チッタゴン丘陵和平協定実施を求めて、国際署名キャンペーンに参加。
2016年	8月、ナガランドを訪問し、連携を探る。
2017年	3月、5月、9月、10月、バングラデシュのロヒンギャ難民の支援活動を展開。 6月「コルボナ・チャクマはどこへ」のショートビデオ作成。 6月に発生したロングドウ・ジュマ襲撃事件被害者、土砂災害被害者への支援活動を実施。
2018年	6月から8月にかけて、ロヒンギャ難民キャンプに156基の簡易トイレを設置する。
2019年	8月に北東インド、アッサム州、トリプラ州の人権の調査を実施する 10月、内紛で父親をなくしたバングラデシュの児童4名の支援を追加
2020年	インドアッサム州、トリプラ州で支援活動始める。



〒132-0033東京都江戸川区東小松川3-35-13-204

電話・FAX 03-III655-1005

E-mail : info@jummanet.org

Web : <http://www.jummanet.org/>